

## 「ゾンビ」(生ける屍)の石炭火力発電所建設案で明らかになる日本の化石燃料の最後のあがき

リリース予定 – 2024年4月11日  
レポートのダウンロード([リンク](#))

[グローバルエナジーモニター](#)による世界石炭火力発電所の年次調査結果には、日本は2023年に2.5ギガワット(GW)の新規設備容量を追加したことが示されている。日本は、中国、インド、米国に次ぐ世界4位の石炭火力設備容量を有し、インドネシアをわずかに上回るが、それは2023年が最後になると見込まれる。

2023年の設備容量には[神戸](#)、[西条](#)、[横須賀](#)の発電所が加わっており、これにより日本で建設中の石炭火力発電所はなくなった。

新規の石炭火力発電所計画は過去10年間に一貫して減り続け、2015年から97.6%減少したが、日本は、G7諸国で唯一残された石炭火力発電所建設計画に固執している。

既存の[松島火力発電所](#)(500メガワット)を石炭ガス化複合発電に[転換するGENESIS松島計画](#)は、日本が石炭火力発電所を閉鎖して再生可能エネルギーという代替技術に切り替えるよりも、「クリーン」な石炭イノベーションという技術的に実施不可能な計画を優先していることを示す事例である。

日本は東南アジア全域で石炭の使用を継続するための計略を進めており、この技術は未熟、非効率、不経済であり、普及の見込みがないにもかかわらず、日本はこの戦略に国際的なお墨付きを与えようとしている。

さらに、日本には計画された石炭の段階的廃止目標がなく、稼働中の設備容量の中で、将来的に閉鎖日が予定されている設備はわずか1.9 GWであり、再生可能エネルギーへの移行に消極的なことは明らかである。

[グローバル石炭火力発電所トラッカー](#)のデータによれば、2023年に世界で69.5 GWの石炭火力発電設備が稼働を開始し、21.1 GWが閉鎖された結果、同年の年間純増分は48.4 GW、世界の合計設備容量は2,130 GWとなった。稼働中の石炭火力発電設備としては、2016年以降最大の純増であった。

この増加を牽引したのは中国における新規石炭火力発電所の急増で、世界の追加分の約3分の2に相当する47.4 GWが稼働を開始した。インドネシア、インド、ベトナム、日本、バングラデシュ、パキスタン、韓国、ギリシャ、ジンバブエでも新規容量が追加となったが、中国以外の国々では、合計22.1 GWが稼働を開始し、17.4 GWが閉鎖された。この結果、稼働中の石炭火力設備容量は4.7 GWの純増となった。

フローラ・シャンプノア(**Flora Champenois**)グローバルエナジーモニター石炭プログラムディレクターは、「日本は再生可能エネルギーに関する世界目標から逸脱し続けているが、真の変革に焦点を合わせたパリ協定に従う石炭の段階的廃止は、技術的にも経済的にも実行可能な状態にある」と語った。

レポートでは以下の点も明らかにされた。

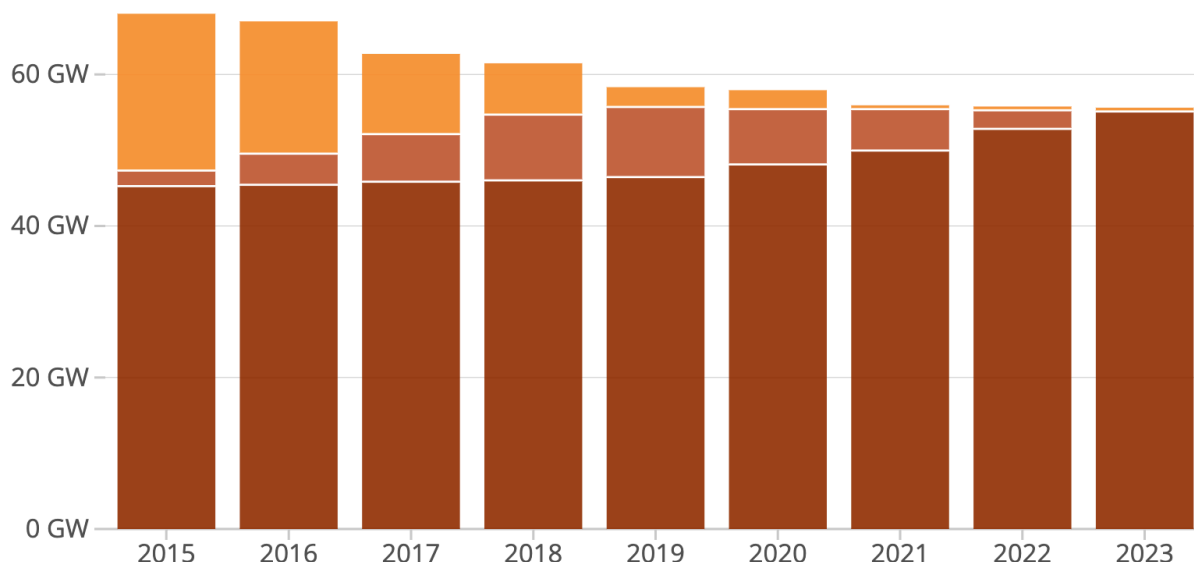
- 先進7か国(G7)は、世界の稼働中の石炭火力設備容量の15%(310 GW)を占めているが、2015年の23%(443 GW)から低下している。2023年に日本での新規発電所の建設が完工したため、G7には建設中の案件がなくなったが、いまだに日本に1件、米国に2件の計画がある。
- G7にEUおよび深刻国12か国を加えた計20か国と地域(G20)は、世界の稼働中の石炭火力設備容量の92%(1,968 GW)、建設前石炭設備容量の88%(336 GW)を占める。
- 中国およびそれに次ぐ10か国が世界の建設前設備容量の95%を占める。残り5%は21か国に分散し、そのうち11か国では建設事業は1件のみであり、「新規石炭ゼロ」という節目となる目標の達成間近である。
- 2023年、中国以外の石炭火力発電所建設計画の減少は、主にインド(11.4 GW)、カザフスタン(4.6 GW)、インドネシア(2.5 GW)による計20.9GWもの完全に新規の計画に加え、以前に棚上げ、またはキャンセルされた4.1 GWの設備容量が再び提案されたことで相殺された。

グローバルエナジーモニター以外の報告書の共同執筆者: エネルギー・クリーンエア研究センター(CREA)、E3G、Reclaim Finance(リクレイム・ファイナンス)、シエラクラブ、SFOC、気候ネットワーク、Climate Action Network Europe、バングラデシュの団体、Trend Asia、Alliance for Climate Justice and Clean Energy(ACJCE)、Chile Sustentable(チリ・サステナブル)、POLEN Transiciones Justas、Iniciativa Climática de México、Arayara。

## 2023年、日本の石炭火力は増加し、1件の石炭火力発電計画を検討中

日本の状態別の石炭火力設備容量—ギガワット（GW）

■ 稼働中 ■ 建設中 ■ 建設前全部（発表済、認可前、認可済）



出典: Global Coal Plant Tracker, January 2024



### グローバル石炭火力発電所トラッカー(Global Coal Plant Tracker)について

グローバル石炭火力発電所トラッカーでは、発電量30メガワット以上の世界の石炭火力発電所に関する情報を提供している。一覧表には稼働中のすべての石炭火力発電所、2010年以降に計画されたすべての新規発電所、2000年以降に閉鎖されたすべての発電所が含まれる。地図とその基礎となるデータは毎年1月と7月の2回更新される。また、4月と10月に一部を補足するための発表として、中国以外での石炭火力発電所建設計画の最新情報を提供する。

### グローバルエネルギーモニターについて

グローバルエネルギーモニター(GEM)では、クリーンエネルギーに関する世界の動向を裏付ける情報を作成・配布している。エネルギー関連の世界的状況の動向を調査研究し、データベースとレポートを作成し、理解しやすくするための対話型ツールを開発することにより、GEMは世界のエネルギーシステムに関するオープンなガイドの整備を目指している。

[www.globalenergymonitor.org](http://www.globalenergymonitor.org)とXの@GlobalEnergyMonでのフォローをお願いします